

夏期ドイツ語研修 報告書

理学部生命科学科 2 年 安田有実

皆さんこんにちは。理学部生命科学科 2 年の安田です。私は 9 月 1 日から三週間ウィーンでのドイツ語研修に参加しました。今回はその研修先での学習や、授業後や休日の自由時間の過ごし方、私自身がウィーンでの三週間の生活を通して学んだことなどについて紹介させていただきます。

<研修先での学習について>

ウィーンに着いた翌日、私たちはウィーン大学でクラスを決める placement test を受けました。テストは口頭試験をまず受け、その後その結果に応じたレベルのペーパーテストを受けました。私は去年一年間ドイツ語を学んでいたのですが口頭試験はまったくと言っていいほどできず、ペーパーテストも自分が思っていたよりはるかに出来栄が悪く一番下のクラスになってしまいました。翌日オープニングセレモニーでクラス分けが発表され（同じレベルのクラスが複数あった）、クラスメイトと先生とも顔を合わせ授業が始まりました。

私のクラスには日本人が私を含めて 6 人（うち首都大生は 3 人、ほかの首都大生は全員違うクラスに振り分けられていた模様）、ほかの国の人が 10 人ほどいました。私たちのクラスでは先生が毎回違う席に座って違う人とペアワークなどをやった方がいいよと言ってくれたのでほぼ毎回違う人と授業を受けていました（日本人同士が隣り合うこともなかった）。

授業が一番下のクラスだったこともあり説明はドイツ語の混ざった英語で行われることが多く（授業後半ではドイツ語の割合が増えていったような気がした）、ゲームやペアワークもありとても楽しかったです。日本の授業と比べるといい意味で雑談が多く、先生が観光や買い物でよく使うドイツ語のフレーズや単語などをたくさん教えてくれたのが印象的でした。またイタリア、アメリカ、フランス、モロッコなど多くの国の人がいるクラスだったので各国の経済や文化などの違いを授業中に英語で話すこともしばしばありました。毎日授業の最後には宿題がでて寮でリスニングやドイツ語の作文なども練習していました。コースの最後には certification（コース修了の証明書）がかかった試験があります。といっても授業内で先生がしっかり対策をしてくれていたので普通に授業を受けて勉強していれば問題はないと思います。

<自由時間の使い方>

ウィーン大学での授業は平日の 9 時から 13 時までだったので平日の午後と土日は観光に出かけることが多かったです。私たちの寮や大学からは歩いて旧市街である一区に出かけることができました。徒歩で移動することの方が圧倒的に多く電車やバスはあまり使いませんでした。寮から大学までが歩いて 30 分ほどあったので、ルートを検索しても徒歩 30 分前後であれば徒歩で行動していました。ウィーン市内にはたくさんの博物館や美術館がありあちこち見て回るのも楽しかったですが、私のおすすめは教会巡りです。ウィーンは町中にたくさんの教会がありガイドブックに載っていないところの方が圧倒的に多いほどでしたが、どこの教会にも個性的で豪華絢爛なステンドグラスや祭壇があり時間を忘れてその中でゆったりと過ごす瞬間が私は大好きでした。そんな教会の中で私が一番気に入ったのは一区のなかにあるイエズス会教会です。↑イエズス会教会
皆さんもウィーンを訪れる機会があったらぜひイエズス会教会に足を運んでみてはいかがでしょうか？



もちろん教会や美術館以外にもたくさんの場所を観光しました。一区の中心にあるホーフブルク王宮（国立図書館は必ず訪れるべき！）やシェーンブルン宮殿はもちろん、ウィーンのカフェ文化を堪能したり、休日にはザルツブルクまで弾丸日帰り旅行をしたりもしました（ザルツブルクは滞在できる時間が短いので観光する前に細かく計画を立てるのがおすすめ）。また平日の放課後にクラスの友達とピザやシュニッツェルを食べに出かけたりもしました。日本の料理よりもはるかに量が多くすこし面喰ってしまうこともありましたがどれも美味しかったです。

<自身の学びについて>

私がこの研修を通して学んだことは二つあります。

まず一つ目はとにかく積極的に、能動的に学ぶ姿勢です。私のクラスの先生は常に「learn by heart」というフレーズを繰り返していました。文法をしっかりと理解することも大切だけど、相手とコミュニケーションをとりたいと思う気持ちこそが一番大切なんだよ、と先生はことあるごとに私たちに伝えていました。そして私はほかのクラスメイトたちが授業中にどんどん先生に質問していく姿勢や、「〇〇ってドイツ語でなんて言うの？」と聞いてはそこで教えてもらったことをその後の会話で使っていることに驚きました。私は日本では習ったことをいかに覚えているかということを重視してしまい、特に語学の授業では言いたいことを言うというよりも言えることを言うという姿勢で授業を受けていました。しかし本当に語学を習得したいなら自分からどんどん積極的に学んでいくことは必要不可欠だなと反省しました。そしてこのことは語学だけではなくどんな学問にも共通することではないかと思いました。

そして二つ目が異文化での生活とその楽しみ方です。ウィーンで一週間、二週間と生活していくうちにいろいろなことに気づかされました。それはいい点も悪い点もありました。例えばウィーンの道路を歩いているとほとんどの車が歩行者に道を譲ってくれました。また観光地での悪い点はそんなに多くは感じませんでしたが、驚いたことと言えばスーパーの店員さんのお客さんによる態度の違いにはびっくりしました。私の前に並んでいたお客さんにはにこやかにドイツ語で話しかけていた店員さんが、私を見るなりつまらなそうな顔でぶっきらぼうな態度での接客に即座に切り替えたのです。最初はとてもびっくりして何か悪いことをしてしまったのだろうかかと不安になりましたが、その後首都大生と他のスーパーに行っても同じような扱いをされ続けたのでいつの間にかそれを何も気にしなくなっている自分がいました。最初は右も左もわからずひたすらうろたえてしまった私ですが、だいたいのはそういう文化なんだなと受け入れてしまえば面白さすら感じてしまえるような気がします。

三週間という期間は言語を習得するという目的には短すぎますが、異文化に触れ、様々な経験を積むのには絶好の機会だと思います。私はこの研修に参加してドイツ語だけではなく英語力もかなり向上させることができましたと思います。もしも今ドイツ語研修のみならず海外研修に参加しようか悩んでいる方がいるならぜひ思い切って参加してみてはいかがでしょうか？必ず多くのことを学べるいい機会になるとと思います。



←寮から見た夕焼け

ザルツブルクの城塞からの眺め→

